

## 事例紹介① 大阪府立急性期・総合医療センター

病院全体で、みんなが望むトイレになるように改修計画を策定。

大阪府立急性期・総合医療センターは、大阪府立病院機構の一員として、救命救急医療、循環器医療などの急性期医療、がんや腎移植などの高度専門医療などに取り組んでいます。また、大阪府の基幹災害医療センターとしても、地域の大切な役割を果たすセンターです。経年劣化の見られる病院全体の改修計画を策定し、休診することなく、水まわりなどの改修工事が進められています。



病棟10F(外科病棟)の、オストメイト対応の多機能トイレ。背もたれ、跳ね上げ手すり、I型手すり、前方アームレストなどが備えられている。大便器は床置きではなく壁掛けタイプにすることで、清掃がしやすい。

## 300カ所以上の調査や患者さんの声をもとに、7年にわたる病院全体の改修計画をスタート。

大阪府立急性期・総合医療センターの中央館などがオープンしたのは、1987年のこと。26年が経過した2013年に、改修の要否を判断するため、「医療サービス改善委員会」が先頭に立って、病院内トイレの300カ所以上の調査・評価を行いました。その結果をもとに、7年ほどにわたる病院全体の改修計画をスタートさせ、患者さんによく使われる場所から優先的に工事を推進。また、患者さんへの満足度調査で挙がっていたさまざまな声にも応え、バリアフリートイレが少ないという問題を解消し、多機能トイレを増やすなどの改修工事が進められました。

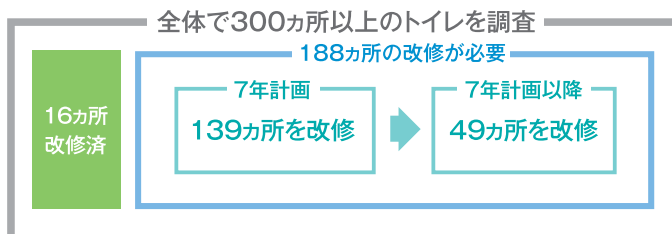
患者さんのためにトイレ環境を改善したいという想いが結実し、新しいトイレが使う人みんなの満足度を高めています。



本館(外来)や中央館(病棟)など、複数の建物によって構成されている。

### 【大阪府立急性期・総合医療センター】 トイレ改修工事

- 着工年月 / 2013年1月～
- 所在地 / 大阪府大阪市住吉区万代東3-1-56
- 施主 / 地方独立行政法人大阪府立病院機構
- 設計 / 株式会社INA 新建築研究所
- 施工 / 阪急コンストラクション・マネジメント株式会社
- 病床数 / 768床



### 施設・保全グループからの声

## 長い目で見た時によかったと思える統一の仕様に。タイムスケジュールにも工夫。



事務局 施設・保全グループ  
施設・保全リーダー

大西雅美さん(左) 堀田学さん(右)

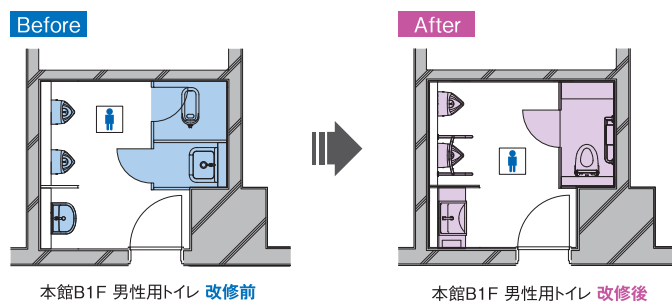
今回の大がかりな改修計画では、設計会社をお願いする前に、まずトイレへの不満をすべて明らかにし、必要な機能について検討しました。今までは、その改修のたびに検討していたのでトイレの仕様が異なり、分かりにくいしコストもかかるという問題がありました。そうした問題を解決するためにも、改修の統一プランの策定も行いました。今後長い目で見ると、ほぼ設計を変えずにコストも機能も分かりやすくなるという大きなメリットがあります。

工期をできるだけ短縮するために、改修に配慮したタイムスケジュールを組んで、ある時間帯はエレベーターを荷物の上げ下ろし専用にするなどの工夫も行いましたね。改修のために大切なのは、やはりコミュニケーション。医療スタッフや工事業者などと早く情報を共有できる連絡体制がとても重要になってきます。みんなが同じ目的に向かって頑張るからこそ、さまざまな困難も乗り越えることができると感じます。

### 本館B1F 外来トイレ

## 和式便器から洋式便器へ改修。 限られたスペースを生かして快適に。

CT室の待合のところに設けられていたトイレを改修。限られたスペースを生かしながら美観を高め、今までの和式便器を洋式便器に変更するなど快適さと使い勝手を向上させています。



以前の小便器は床置きで、床が汚れやすいという問題もあった。



新しくなったB1F男性用トイレ。小便器は壁掛けの低リップタイプで、子どもから大人まで使いやすい。



B1F男性用トイレのブース。大便器を洋式の壁掛けタイプに変更した。

本館2F 外来トイレ



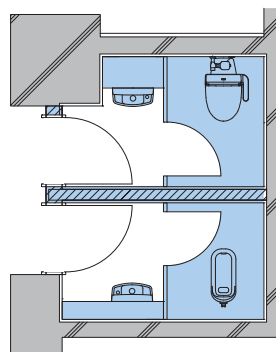
2F外来の9番窓口近くのトイレ。おむつ交換や座って着替えのできる多目的シート、ベビーチェアなども備えられている。

2つのブースをまとめ、1つの多機能トイレに。介助のために十分なスペースも確保。

外来の9番窓口の近くには、左右に男女1つずつのトイレがありました。入口が狭くて車いすでは利用できないという大きな問題がありました。そこで、男女2つのトイレを、1つの広い多機能トイレに変更。オストメイトへの配慮も行っています。

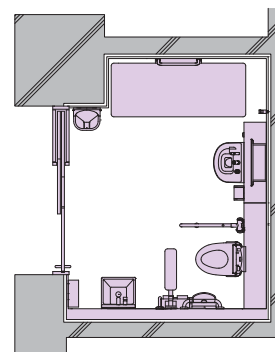
壁掛けタイプの洋式便器のまわりには、背もたれ、跳ね上げ手すり、I型手すり、前方アームレストを設置。車いすの患者さんでも安心して快適に利用できるトイレへと生まれ変わりました。

Before



本館2F 9番外来トイレ 改修前

After



本館2F 9番外来トイレ 改修後



外来の9番窓口は、外科・形成外科・皮膚科の窓口になっている。

外来の看護師長さんからの声

どのトイレでも大丈夫、という安心を築く改修。



渡部幹子さん (左)  
石井ひとみさん (右)

トイレの改修は、患者さんの視点で優先順位を考え、まずは待合からいちばん近い場所にあるトイレを、バリアフリーの多機能トイレに変えました。以前は暗くて臭いもあったトイレが、きれいに清潔になり、広がって介助もしやすくなりましたね。トイレをスタンダード化することは、患者さんがいざという

時に、どのトイレへ行っても大丈夫という安心を築くこと。利用される患者さんの立場を考えた改修ができています。

## 病棟9F 個室トイレ

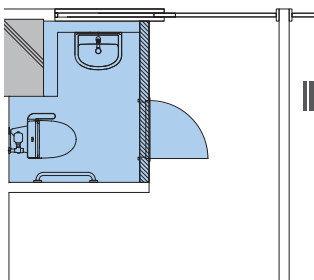


整形外科などが入っている、病棟9Fの個室のトイレ。背もたれ、跳ね上げ手すり、I型手すり、前方アームレストが備えられ、大便器は壁掛けタイプを採用。

### 車いすでも使いやすいトイレは スタッフによる介助もしやすい空間。

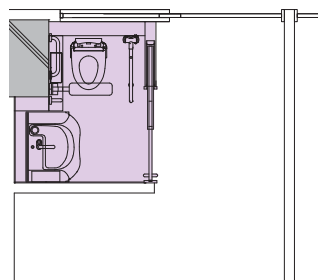
病棟の個室のトイレは、同じスペースの中で出入り口を広げ、車いすでも使えるように変更。使い勝手を考慮し、洗面台もトイレブース内に設けています。患者さんが利用しやすいのはもちろん、介助もしやすい空間へと生まれ変わりました。

Before



病棟9F 個室 改修前

After



病棟9F 個室 改修後

## 看護部長さんからの声

### トイレが心から癒される場所へと変化した。



猪原繁美さん

トイレはいっぱいそこにあるのに使えない。トイレ改修は看護部の大きな課題でした。改修費用や工事期間などを考えると毎年2~3カ所が限度だったのですが、今回、医療サービス改善委員会を中心に、施設・保全グループの強力なバックアップで、毎年計画的に改修ができることになり、看護師だけでなく病院の全職員がうれしく思っています。

工事期間や騒音への配慮もしていただき、大きな問題もなく、どこのトイレもとてきれいで使いやすくなりました。次は私の所というように、改修をみんなが楽しみに待っています。ホテルみたいなトイレになり、トイレが本当に心から癒される空間になりました。



車いすでもラクに出入りできる引戸を採用している。

## トイレを改修した一般病棟の看護部長さんからの声

### 短い工期で改修し、患者さんへの負担を軽減。



野中真由美さん

個室にもトイレはあるのに、車いすや歩行器が入れるスペースがないため使えず、外の車いすトイレまで行かざるをえないケースがありました。特に整形外科の病棟は、そうでしたね。今は広さを確保し、明るく清潔になり、水だけではなくお湯も使えるようになって、患者さんに喜んでいただいています。改修工事では、基本的にトイレ改修中の個室は使えなくなりますから、他の看護部長さんやベッドコントロールセンターと協力しながら進めました。

病棟10F 共用トイレ



病棟10F(外科病棟)の、オストメイト対応の車いすトイレ。壁面にも手すりを設けるなど、いろいろな身体状況の患者さんの使いやすさと安全性を考慮している。

どの診療科でも使いやすい  
スタンダードトイレとなるように配慮。

一般病棟のトイレ改修では、男性用トイレをオストメイト対応の車いすトイレにし、女性用トイレのブースも点滴スタンドとともに入れる広さを確保するなどの変更が行われました。

急性期病院の特性として病棟の編成が変わることもあるため、トイレを診療科ごとに変えるのではなく、どの診療科でも使いやすいスタンダードトイレとなるように配慮。血圧の上昇や下降によってトイレで転倒してしまう患者さんも多いので、ストレッチャーがスムーズに入れることも重要視しています。



車いすでも使いやすい引戸を採用した多機能トイレ。サインはシンプルで分かりやすい。

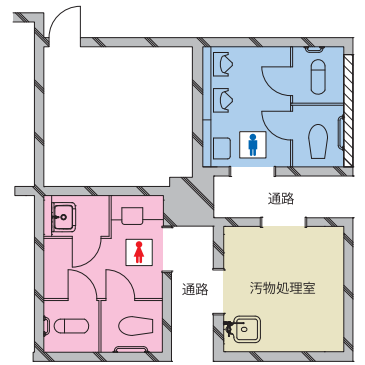


10Fの女性用トイレには、L型手すりなどが設けられている。



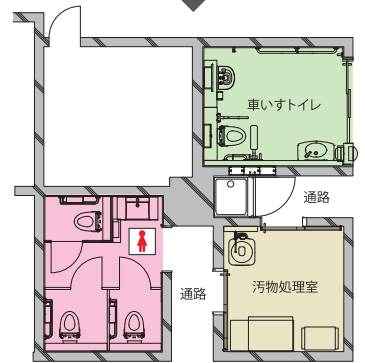
10F汚物処理室に設けられた汚物流し。作業性が向上し、腰にかかる負担も解消された。

Before



病棟10F 共用トイレ 改修前

After



病棟10F 共用トイレ 改修後

副看護部長さんからの声

清掃がしやすく、スタッフにも快適な空間に。



妹尾久美さん

お掃除のスタッフから、トイレが新しくなって清掃がしやすくなったと喜んでもらっています。特に今までの和式便器だと、いくら掃除をしてもすぐに汚れてしまい、清掃回数も増えていました。ジメジメ感も臭いも解消され、患者さんはもちろん、スタッフにも快適になったと思います。トイレブース内のナースコールの位置や、便座の高さなどを、設計の方とじっくりと検討するなど、私たち現場の意見も反映されました。足腰の弱い患者さんにも使いやすいトイレになって、良い改修ができたと感じています。

一般病棟の看護師長さんからの声

患者さんがトイレに行きたいという意欲へ。



古吉めぐみさん

外科病棟の今までのトイレは、車いすでの介助がしにくくて、たいへんでした。新しいトイレになって、患者さんが「トイレに行きたいです」と意欲が出るようになり、リハビリにも効果があると思います。人感センサー式ですから、照明によって使用状況が遠くから分かることも、看護師にとっては大きなメリットです。大便器に前方アームレストを付けて、患者さんが一人で体勢を保持できるようになり、介助がしやすくなってプライバシー保護にも役立っています。

## 本館3F 一般用トイレ



白と黒を基調にした3Fの男性用トイレ。車いすでも快適に利用できる。



小便器の下には衛生性を高めるため、耐酸性のある長尺シートが敷かれている。

## さまざまな人が利用するトイレは、スタイリッシュな空間に。

本館3Fには、トイレ近くに講堂などがあり、受講者や医療従事者などのさまざまな人がトイレを利用します。モノトーンのスタイリッシュなトイレに改修され、利用者にたいへん好評です。

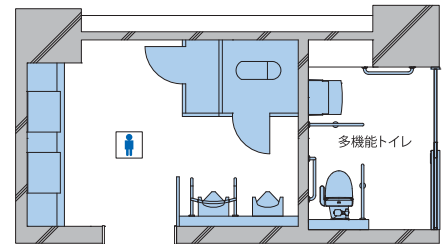
### 設計担当・村井さんによる工事全体の改修メモ

**改修前** ・仕上げ材や器具類が経年劣化によって傷んでいた。・臭気が少し気になった。  
・仕上げが100角タイルを使用しており、昔ながらのトイレであった。

**第1期改修工事で配慮したポイント** …躯体と設備は耐用年数が違うので、「次」につなげる改修を!

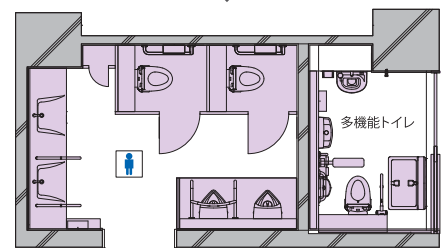
- ① 短工期での工事 …設計工期:約3週間 工事工期:約2ヵ月 計13ヵ所の改修設計・工事監理
- ② 騒音・振動対策 …騒音・振動のあるコンクリート研り工事を極力減らすことを重視
- ③ コストへの意識 …全体のコストコントロールをしながら、メンテナンスコストの削減も考慮
- ④ 既存配管の再利用…工期短縮やコスト削減のためにも、生かせるものは生かす
- ⑤ 工事制約への配慮…時間帯・他工事との取り合い・個室の工事制限・断水・停電
- ⑥ 安全な工事の進行…搬入・搬出、仮囲いや養生、ペアでの作業 など

Before



本館3F 男性用トイレ・多機能トイレ 改修前

After



本館3F 男性用トイレ・多機能トイレ 改修後

### 設計担当の方からの声

吸臭効果のある天井材など、使用する素材も工夫。工事中は細心の配慮を行い、患者さんの安全を確保した。



株式会社 INA 新建築研究所  
大阪支店  
主任  
村井俊彦さん

指定された工期が短かったため、工事のしかたも工夫しました。壁は既存タイルを残したまま、LGSを内側に施した耐水ボードに、防臭・抗菌・耐水性の強いクロス仕上げ。床仕上げは、防滑性・耐酸性のある長尺塩ビシートを採用しました。また、天井材には吸臭効果のある調湿ボードを採用し、臭いを抑えられるように配慮しています。空間デザインは病棟と外来を分けて、病棟トイレは温かみのあるナチュラルテイストに、外来トイレはモダンでシャープな雰囲気になりました。

工事の時間の制約もあり、外来では診察後の夕方5時から朝の8時頃までに大きな作業をし、軽作業は昼間に。病棟はいつ入っても迷惑になってしまいますが、食事や回診の時間帯は

避け、夕方5時頃には作業を終わらせました。個室を使えない期間を短縮するため、天井内工事のある上下階を同時に行い、軽作業の時は患者さんが入院中の個室も工事させてもらいました。イベントのある日も、終了後は工事に充てましたね。工事中はさまざまな安全への配慮を行いました。例えば、通路を狭めないように仮囲いをできるだけ小さくしたり、搬入・搬出をまとめて行ったり、養生すると足がビニールに引っ掛かる危険性もありますから、床を養生せずに外から出入りする一輪車のタイヤを拭いてきれいにしたり。そうした清掃と安全確認のために、搬出入のスタッフは常にペアで動くようにしました。